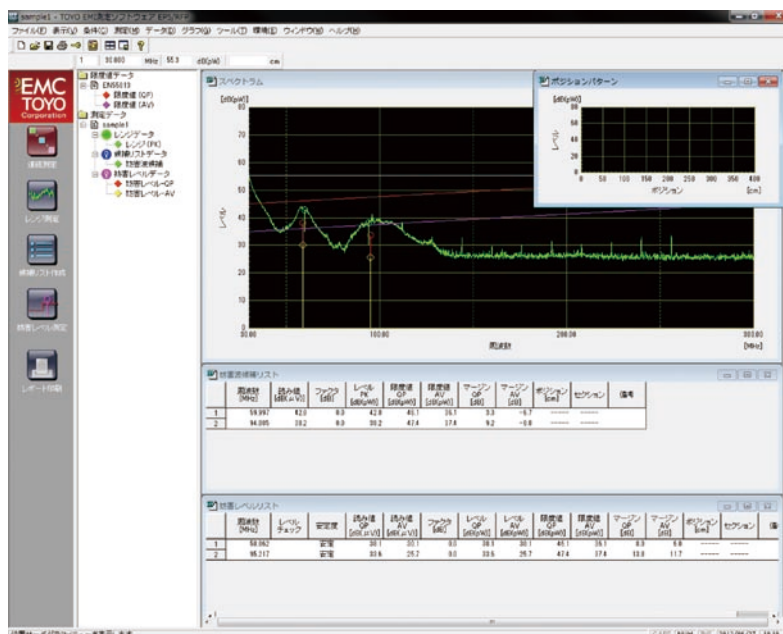


# EP5/RFP 型 雑音電力自動測定ソフトウェア



EP5/RFP 測定画面例

## ■基本機能

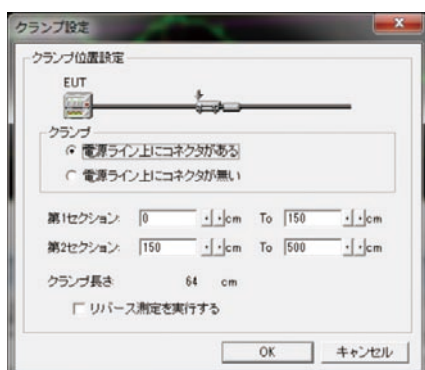
- レンジ測定機能（スペクトラムデータの取得）  
クランプ走行台上のクランプを自動で走行させながらスペクトラムアナライザにてスペクトラムデータを取得します。この時、各周波数ポイントが最大になるクランプ位置を記録することが出来る為、QP 測定前の対策を確実に行うとともに、測定時間の短縮が可能です。
- 候補リスト作成（QP すべき妨害波の選択）  
レンジ測定で取得したデータから QP 測定すべきピーク値を自動または手動で選択します。自動の場合は限度値からマージンの少ない順に条件で指定された数の妨害波を自動選択します。
- 妨害レベル測定（QP 測定）  
候補リストで選択した周波数について、最大になるクランプ位置を自動測定し、その位置で QP 測定を行います。

## ■クランプ設定

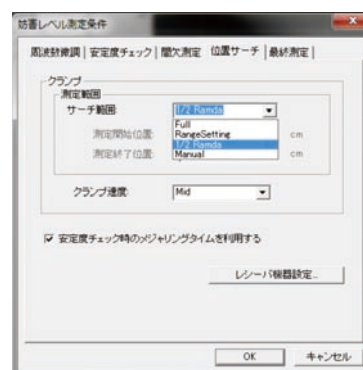
電源ケーブルが EUT に固定されている場合、その位置をあらかじめ指定することにより、確実に規定されたケーブル長の試験を行えます。クランプを付け替えはメッセージに従って行います。

## ■最大位置サーチ

QP 測定を行うために、レベルが最大位置になるクランプ位置を測定します。最大位置のサーチ方法は全周波数規定の 5m クランプ移動、時間短縮を行うために測定周波数の 1/2 λ 分(半波長)のみ移動の他、測定周波数レンジごとに移動位置を設定することが可能です。さらに手動で最大位置を決定することも可能です。



クランプ設定画面



最大位置サーチ設定画面